

中長期目標 (学校ビジョン)	「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」 「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。	今年度の重点目標	1. 基礎学力の向上 2. 基本的な生活習慣の習得 3. 集団・社会適応能力の向上 4. 進路指導の充実
---------------------------	--	-----------------	---

評価項目	評価の具体項目	年度当初		中間評価			最終評価			
		現状	目標（年度末の目指す姿）	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等	
基礎学力の向上	○学習意欲の向上 ○授業の質の向上 ○放課後学習の充実	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着が充分とはいえない。 ○職員間による授業の質に差がある。 ○昼間に登校できない生徒数名が放課後に学習しているが細かい指導が出来ていない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的な学習展開が図れる。 ○授業の質向上のために、職員の努力が日々行われ、積極的に情報を共有している。 ○目標の達成のために放課後、意欲的に学習する姿が見られる。	○分かりやすい授業・魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は「習熟」の授業で苦手分野を克服し、自信をつける。 ○授業を公開することで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を上げる。 ○担当職員を決め、放課後学習の指導を徹底し、学力を引き上げる。	○視覚教材や実習などを取り入れ工夫しながら進めているが、教科によっては授業に集中していない生徒が見られる。 ○前期に授業公開を2回実施することが出来たが、来校者が少なかった。 ○担当職員を明確にし、放課後学習での細かい指導が出来始めた。	B	○職員の間での授業に取り組む姿勢に差を無くす。 ○引き続き継続していくことと、放課後の生徒達の情報の共有をしていく。	A	○授業公開・研究授業の実施により、授業の質・生徒の学習に対する意欲を高めることが出来た。放課後登校する生徒の担当を担任が務めることにより、保護者への連携もとりやすくなった。教科担任とも連絡を密にし、情報の共有も出来ている。その結果、漢字検定にも合格することが出来た。	○基礎学力は底上げできていると思うが、進学に向けての学習が出来ていないのが現状。進学希望者は選択授業・放課後の時間を利用して進学に向けての学習を行う必要がある。
基本的な生活習慣の習得	○ルールやマナーの向上 ○信頼し合える関係作り ○家庭との密な連絡	○服装の乱れや遅刻など基本的なことができない生徒が見られる。 ○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。 ○電話連絡をする程度にとどまっている。	○社会に出てから通用する身なりと態度が身に付いている。 ○生徒同士、生徒と職員同士が何でも話せる雰囲気がある。 ○学校からの情報や文書が保護者に確実に届き、学校や生徒の状況が把握できる。	○月に1度、服装検査を実施することにより社会で通用する「身だしなみ」の確認を行う。 ○登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、マナーの徹底を図っている。 ○信頼関係の構築のために様々な機会をとらえて声かけをするように努める。 ○生徒の送迎時、家庭訪問、電話にて情報交換を密に行い個々の状況を理解した上で指導をしていく。また、月便りに生徒の様子を記入し送付する。	○服装検査が定着し生徒自身の意識も高まっているが、まだ不十分な生徒が数名見られる。また、生徒が話し合っ月ごとに目標を決めポスターを作成・掲示し啓発活動も行っている。 ○当下校時の挨拶、休憩時間での声かけなど積極的に行っている。 ○各学年で家庭連絡を密に行い、保護者との連携が概ね図れている。保護者も交えたピザ作りなどのイベントも実施し、交流が図れた。 ○地域住民の方から生徒の行動が良くなってきているとの情報を多く聞くようになった。	B	○職員が毎日生徒全員と会話することを目標とし、普段の声かけの中に身だしなみのことについても話しをしていく。	A	○毎月、最終金曜日の服装検査の実施により、身だしなみが整い始めた。毎月、最終木曜日にはスーパデーと称して全校生徒と全職員が集まり、一緒に温かいスープと弁当を食べるといことも行い、繋がりを強めた。また、三者懇談、家庭訪問、電話連絡、手紙・月便りの送付の回数を増やすことによりより家庭との連絡も密に行えた。	○服装検査、スーパデー、由良駅への送迎、月便りの送付の継続が必要。より一層、家庭との信頼関係を築くために保護者を巻き込んだ行事を増やすことが必要である。保護者とのface to faceの場をもっと多く作り、より信頼感を強めたい。型はしっかり出来たので、当初の目標である中身をより充実したものにすることが必要である。

評価基準 A: 概ね達成 (80%以上) B: 変化の兆し (60%程度) C: まだ不十分 (40%程度) D: 方策の見直し (30%以下)

年度当初				中間評価			最終評価			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
集団・社会適応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスでの仲間作り ○縦割り班での選択授業 ○清掃活動の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラス内での不仲により欠席が増える生徒が見られる。 ○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。 ○掃除を人任せにする生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係のもつれが原因の欠席を無くす。 ○選択授業において縦割りの中で生徒主体となり計画し、協力して実行していく姿が見られる。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。 ○選択授業のPDCAサイクルのサポートを継続的に行う。 ○日ごろの清掃活動の取り組み指導、掲示物による視覚情報を利用し啓発を効果的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昼休憩に各教室で職員と一緒に弁当を食べたりしながらクラス内での様子を把握出来ているが、うまく情報交換が出来ていない部分がある。 ○縦割り班での選択授業は友人関係のもつれもなく生徒も楽しく参加出来ている。 ○職員も共に清掃活動することにより、生徒の自発性も出てきたように感じられる。また、担当箇所に責任者（生徒）を決めることによって最後までやりきるようになった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職員間で情報交換の意識を高める。 ○まだ清掃を人任せにする生徒がいるので責任者に任命したりするなどしてゼロにしておく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昼休憩時に教室の担当を決めて生徒と職員と一緒に昼食を食べることにより、クラス内での信頼関係の構築が図れた。選択授業においてはそれぞれの活動の発表の機会を設けたことにより、取り組みも積極的になった。清掃活動において責任者を決めて行ったが目の届かないところでは清掃活動を行っていない生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昼休憩の職員の担当制、選択授業の発表会は続けていく必要がある。清掃活動に関してはチェック表を作り責任者にチェックさせることでやるべきことの徹底を図る。集団行動時の職員の働きをよりの確にし、集団適応能力を身に付けさせたい。
進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い職業観の育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の促進 ○進路実現に向けての具体的な行動化 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業に関する知識が少ない。 ○「今の自分」「なりたい自分」が見えていない生徒が見られる。 ○目標はあるが具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が進路目標を掲げ、その実現のために日々努力している。 ○自らの進路について真剣に考えることで、日々の生活が規律ある充実したものになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める。 ○出前授業、学校見学を実施することにより進学に関する選択肢の幅を広げる。 ○キャリア教育を実施することにより「なりたい自分」を見つける。 ○就職希望者は就職セミナー等に参加し、就職に関する学習の機会を増やす。 ○進学希望者は特別授業にて学力アップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職業人講話は前期3回実施することが出来た。 ○出前授業は前期1回実施することが出来た。 ○修学旅行も兼ねた学校見学にも全校生徒が参加することが出来た。 ○就職セミナー・就職ガイダンス・就職面接会に積極的に参加することが出来た。 ○職員自身もキャリア教育の研修に出かけ、その知識を生徒に伝えることが出来た。 ○進学希望者は勉強室にて特別時間割で受験勉強を実施している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○まだ進路が明確になっていない生徒が見られるので相談回数を増やし、早い段階で進路を明確にしている。 ○キャリア教育の時間をもっと増やし、生徒に将来のことを考える時間・機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○職業人講話、学校見学、出前授業、就職ガイダンス、就職セミナーに積極的に参加することによって進路に関する意欲は喚起出来た。その結果、進学希望の生徒は早い時期に動き出す事が出来、スムーズに進学希望通りに決定した。しかし、就職希望の生徒は動き出す時期がとても遅くなかなか決まらない生徒もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○早い時期での進路先の決定が重要。そのためにも、日常生活の中で進路に関する情報提供をより多くする必要がある。そして、進路決定時に必要な資料の充実に努める。より幅広い視野から進路決定させるため、外部の情報提供者から話しを聞く機会を増やす必要がある。

評価基準 A: 概ね達成 (80%以上) B: 変化の兆し (60%程度) C: まだ不十分 (40%程度) D: 方策の見直し (30%以下)